

西丹沢・沖ビリ沢

平成24年4月1日(日)

L 白土悟、白土久美子

記録：久美子

3月25日に結婚式をあげた。準備や打合せに追われ、山のことを考える余裕も無く、当日まであつという間に毎日が過ぎ去った。楽しい日々だったけど、その間に二の腕の筋肉はすっかり落ち、“体を動かしていないな〜”というストレス？も徐々にたまってきた。

結婚式の3日前になると、準備はすっかり整い、時間ができたので二人とももう山のルート集などをめくり、式が終わったらどこへ行こうかという頭に切り替わっていた。

そんなこんなで結婚式の余韻に浸りつつ、待ちに待った、普通の週末。初級の沖ビリ沢へリハビリに行ってきた。

秦野からR246で1時間半ほど走り、山中湖を過ぎて、道志みちの山伏峠登山口に車を停める。沢の入渓点までは登山道や仕事道を下降する予定なのに、私はなぜか早くも沢靴に履き替えてしまう。久々なので、どうも感覚を取り戻せずにいろいろと手まどう。

水の木分岐まで登山道を歩き、その先は一応赤テープのついた踏み跡に

入り、尾根づたいに下降。広い尾根なので少々わかりにくい。アプローチはヘビの楽園、と恐ろしい情報が本に書かれていたけど、今日は遭遇することなく、出合に到着。登山道の脇には残雪があり、入渓すると水がとても冷たい。魚影があり、小さい魚なら釣れそう。ほどなく最初の4m滝。行ける、と思ってみたものの、いまいち体が固く、危なっかしい足取りで悟さんにシュリングで助けてもらう。

滝の上はナメ床で、丹沢にしてはきれい。小さな釜つきの7m滝はトラロープが右に垂れていたけど、悟さんは見向きもせず取り付いた。ホールド・スタンスが小さくてパッと見難しそうだけど、するすると登って行ってしまった。私は上から補助ロープを出してもらう。

続いて4段13m。下は2段10m。ここも右にトラロープがあるけど、無視して水流脇を登った。滝の上はまたしてもナメ床。滝場が少ないのでトラロープを掴んだらおもしろくない、という悟さん。私だったら迷わず掴んじゃうけどなあ、でも確かに滝が少ないので直登しないと見どころがない。3段10×15mを越えるとまたナメ床。だんだん水量が減り、源頭ぼくなってくるといよいよ詰め。ぬめっている棚を越え、短いながらも急斜面を水の木分岐に詰めあがり、あとはもときの登山道を駐車場まで戻った。

沖ビリ沢はとても短く簡単で、遠いけど初心者などにはよいかも。久しぶりの沢は、着るものの厚さだとか、装備の中でも使いやすい使いにくいとか、修理したいと思っていたけどそのままにしていたものとか、忘れかけていたり鈍っていた感覚を取り戻す一日だった。これからまた、いろんな山へ行きたいなあ、どんどん、声をかけてください。

- 8 : 20 駐車場
- 10 : 00 沖ビリ沢出合
- 13 : 10 水の木分岐
- 13 : 40 駐車場



【4段13mの下部】